

集团的自衛権を巡る
主な野党の立場

違 憲	共産党
	社民党
安倍政権の判断は違憲性	民主党 「憲法改正の手續きをして国民の信を問うのが本来の姿だ」(安住淳国対委員長代理)
慎重判断が必要	維新の党 「憲法適合性についてはなお説明が求められる」(柿沢幹事長)
合 憲	次世代の党

集团的自衛権

民主・維新、あいまい

集团的自衛権の行使の「違憲性」を問う野党の立場はまちまちだ。民主党と維新の党は集团的自衛権の行使が憲法違反かどうかは「憲」とまでは断じきって

ない。集团的自衛権に関して「安倍政権の進める集团的自衛権は容認できない」との立場だが、同時に「未

る考えはない」(岡田克也代表)として将来の行使容認に含みを残している。党内には前原誠司元代表や長島昭久元防衛副大臣ら政府の考え方に一定の理解を示す層がいるためだ。

護憲の立場の共産、社民両党は集团的自衛権の行使を明確に「違憲」だとして

維新の党は、安保関連法案への姿勢すら明確にしていない。松野頼久代表は「あえて方針を決めず、特別委員会での審議を進める中で賛否を判断する」との考えだ。なお影響力を残す橋下徹大阪市長は安倍政権の考え方に近い。

集团的自衛権の行使は「合憲」とした政府見解に關しては「憲法適合性について、なお説明が求められる」(柿沢未途幹事長)などとあいまいな姿勢をとっている。

一方、野党でも次世代の党は現行憲法の改正を党是としており、政府に近い立場を取る。